

## 【スタグフレーション】

長引くコロナ禍やウクライナ情勢などに伴い、景気変動や物価上昇に関連した報道を目にする機会が増えていますが、その際に「スタグフレーション」という言葉が度々登場しています。

今回は、この「スタグフレーション」について説明します。

### 1. スタグフレーションとは

スタグフレーション (Stagflation) とは、景気が後退する局面でインフレ (物価上昇) が同時進行する現象のことをいいます。この名称は、景気後退を意味する「スタグネーション (Stagnation)」と物価上昇を意味する「インフレーション (Inflation)」を組み合わせた造語です。

通常	景気拡大	+	インフレ(物価上昇)
	景気後退	+	デフレ(物価下落)

スタグフレーション	景気後退	+	インフレ(物価上昇)
-----------	------	---	------------

通常、景気後退時は需要が落ち込むことからデフレ (物価下落) となることが一般的ですが、原油などの原材料価格が高騰することにより、不景気の中でも物価が上昇する場合があります。

スタグフレーションが起きると、給料などの家計収入は増えずインフレによって家計支出が増えるため家計が圧迫されます。そのため、節約・貯蓄といった消費マインドの低下により、さらに需要が落ち込むといった悪循環に陥ります。

### 2. スタグフレーションの発生要因

スタグフレーションが発生する要因の代表的なものとして、供給不足・為替相場変動が挙げられます。

生活必需品などの供給不足が起きると物価が上昇します。1970年代のオイルショックでは、第4次中東戦争の影響による石油価格の引き上げと供給制限に伴って、さまざまな生活必需品が品薄となり物価が上昇したことでスタグフレーションが起きています。

また、海外からの供給依存度が高い場合、日本における円安ドル高のように為替相場の変動によって輸入価格が上昇した際に、物価上昇によってスタグフレーションが発生する場合があります。

### 3. 今後の見通し

現在、新型コロナウイルス感染症拡大、ウクライナ情勢に伴う経済制裁などの影響によって原材料価格の高騰や半導体などの供給不足が続いており、世界的にインフレが加速しています。世界の主要な中央銀行はインフレを抑制するため相次いで利上げに動き、一方で景気後退が懸念される中国では利下げに動いていますが、利上げ・利下げの効果が景気に反映するにはタイムラグがあるため、スタグフレーションを引き起こすリスクに警戒感が強まっています。

日本における物価上昇は主要先進国と比べればまだ低い水準にあり、日銀は金融緩和の維持を決め利上げを見送っていますが、利上げに動く米欧諸国との金利差が拡大することで一段の円安を招き輸入価格をさらに押し上げインフレ圧力を高める懸念もあります。

## 閑話ひとつ

◇3年振りに有観客で開催された「夏のセンバツ」。福島県代表の聖光が名だたる名門校を破り初の東北勢対決となった準決勝に駒を進め、宮城県代表の仙台育英が東北勢悲願の初優勝を果たしました。東北人や福島県民にとって歴史と記憶に残る大会となりましたが、我が家の観戦も例年とひと味違うものとなりました。

◇ルールもよくわからず、普段は高校野球を全く見ない妻が聖光の緒戦から観戦。一緒に観戦した準決勝・決勝では熱く私に解説するのです。巷では仙台育英・須江監督の優勝スピーチに注目が集まりましたが、私たちは仙台育英の選手やスタンドにも目を奪われました。

◇相手校よりも深々と下げた姿勢が綺麗に並ぶ試合後の整列。「聖光の気持ちも背負って」と、聖光の応援曲「キセキ」を仙台育英吹奏楽部が演奏した決勝のスタンド。こうした一挙手一投足に加え、飾り気のない、内から溢れ出るような須江監督の名スピーチが重なり、気が付けばかつてないほど純粋な心で拍手を送っていました。  
(KS)